報　告

昭和59年度
共通第１次学力試験の結果

昭和59年度共通第１次学力試験は，各国公立大学及び産業医科大学と大学入試センターとの緊密な連携のもとに，昭和59年１月14日，15日の両日，全国279会場で，360,846人の志願者について一斉に行われた。

今回の試験は，昨年同様，降雪による交通機関等の混乱もなく，当初の計画どおり実施され，無事終了した。

1　実施方法等の決定・発表

昭和59年度共通第１次学力試験の実施に当たっては，前年度の試験の終了後寄せられた要望・意見等を参考とし，過去５回の実施の経験を踏まえて検討した結果，技術的に対処できるものについては，一部，改善を講ずることとしたが，ほぼ前年度と同様の方法で行うこととし，昭和58年６月22日，「昭和59年度大学入学者選抜共通第１次学力試験実施要項」を決定するとともに，この実施要項に基づいた「受験案内」を作成し，志願者や高等学校関係者に交付した。また，大学側とは，昨年の５月及び11月の２回にわたり入試担当者会議を開催し，試験の実施，業務の処理日程及び各種の事故対策等の細部にわたる説明・協議を行い，実施に万全を期した。

また，高等学校，教育委員会，ＰＴＡ等関係者を対象として，昨年の６月から７月にかけて，共通第１次学力試験の説明協議会を全国７地区で開催し，試験の実施に関する諸事項について説明を行うとともに，協議の機会をもち，その周知を図った。

2　志願状況等

(1)　志願者数

出願受付は，昭和58年10月１日から15日までの間，高等学校卒業見込みの者は在学する高等学校を経由して，高等学校卒業した者等については直接大学入試センターへ郵送することにより行われ，志願者数は，360,846人となり，前年度より1,763人減少した。また，高等学校卒業見込者（現役）の志願率も15.5％と，前年度より0.1％低下した。高等学校卒業見込者が前年度より約37,000人減少すると見込まれたにもかかわらず，志願者数が前年度に近い数となったのは，高等学校卒業者等（浪人）の志願者が前年度より約5,000人も増加したことによるものである。

(2)　大学・学部別志望状況

大学・学部別の平均倍率は，志願者が減少したことを反映し，前年度より0.1倍減少して，3.7倍となった。学部系統別にみると，「理工系」，「農水産系」，「薬系」で増加し，「人文・社会系」，「医歯系」，「教員養成系」が減少した。この状況は，全般的に前年度と同じ傾向である。

(3)　試験場

志願者数の確定後，各国立大学は公立大学と協力して志願者数に応じた試験場を設定した。試験場は，各大学の施設を当てることを原則としているが，志願者数が大学の収容数を超えた大学は，高等学校等を借用するなど，全国で279会場に及んだ。

(4)　受験票等の発行

受験票等の志願者への発送は，11月15日から22日までの間に行った。受験票等はすべて受験者本人に直接送付したが，その後，未着，紛失，破損等による再発行申請があり，ただちにこれらに応じた。

3　共通第１次学力試験の実施

(1)　試験の実施

共通第１次学力試験の本試験は，１月14日，15日に，全国279会場で一斉に行われた。

また，病気等の理由により本試験を受験できなかった者のための追試験は，１月21日，22日に，東京水産大学及び大阪大学の２会場で行われた。

今回の試験は，昨年同様，降雪による交通機関等の事故もなく，無事終了した。

本試験及び追試験の受験者は，341,425人で，このうち追試験の受験者は，前年度より34人も増加して137人となった。これは，疾病・負傷による追試験の受付を当日（14日）の午前10時まで延長したことによるものと考えられる。また，欠席者数は，19,421人，欠席率5.38％で，前年度より0.01％の微増となった。２浪以上が14.7％と最も高く，現役4.5％，１浪3.1％となっている。系統別では，医歯系8.6％，人文・社会系6.0％と高い率を示している。現浪別，系統別とも前年度とほぼ同じ傾向となった。

なお，身体に障害のある者192人については，障害の種類・程度に応じ，受験の際，特別の措置がとられた。本年度から新たに実施した「拡大文字による問題冊子」は，23人が使用した。

(2)　試験問題

共通第１次学力試験の試験問題は，「高等学校における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定すること」を目的にしており，今回の試験問題の内容について，広く一般から批判・意

見が寄せられているが，全般的に適切な出題であるという評価が多かった。

一方，他大学等の試験問題と類似の出題があると指摘されたが，これについては，大量の試験問題を作成する共通第１次学力試験の特性上，全く無くすることは技術的に難しいが，受験生の不公平感を払拭するためにも，できる限り避けるべきであり，各国公私立大学等の試験問題を積極的に集め，点検・照合を行いたい。ただし，基本的な事項について試験を行う共通第１次学力試験の目的・性格上，同じ題材を取り上げることとなる場合も予想されるが，そのようなときは，設問の仕方に工夫を加えるなど，まったく違った問題として出題することになると思われる。

また，本試験の「地学Ⅰ」に出題誤りがあったことについては，遺憾なことであり，今後，十分留意すべきことと考えている。

なお，大学入試センターでは，試験終了後から高等学校側の意見を聞くなど，分析・研究を行っているところであり，今後の問題作成に反映させることとしている。

4　共通第１次学力試験の結果

(1)　答案の採点

共通第１次学力試験の志願者360,846人のうち，所定の全教科・科目を受験した341,425人の答案約170万枚は，各国公立大学で取りまとめられ，大学入試センターへ返送された。大学入試センターでは，これらの答案を１月16日から光学式マーク読取装置で読み取り，電子計算機により採点した。

受験番号マークもれ等は，解答用紙の受験番号欄，選択科目欄等の改善を図ったことなどにより520件と前年度に比べ半減した。

(2)　実施結果

答案の採点に基づき，本試験の所定の全教科・科目を受験した341,288人の試験結果をまとめ，総得点，科目別の平均点，標準偏差，最高点，最低点及び総得点の得点分布などを２月３日，報道機関を通じて発表した。

全教科の平均点は，608.77点で前回より27.33点下回り，過去２番目の低い点となった。これは，「数学」の問題が，単に計算させる問題より，考えさせる問題であったことが，やや難解と受けとられ，約31点下回ったことが，全体の平均点を下げることとなったものと考えられる。しかし，平均点が６割を下回らないとする目標は，一応達成できたと考えている。

教科別にみると，「社会」(126.46点) 6.97点，「理科」(136.93点) 8.08点と前年度より上昇し，「国語」(123.60点) 6.33点，「数学」(108.31点) 30.96点，「外国語」(113.46点) 5.10点とそれぞれ低下した。国語，社会，理科については，ほぼ目標どおりということができるが，数学と外国語については，やや低めとなった。

また，科目間の平均点の差を縮少することについては，かねてからの懸案であり，今回は，「理科」については，最高の「化学」(70.73点) と最低の「生物」(63.93点) との差が6.8点となり，前年度約13点の差に比べて，科目間の差が縮小した。しかし，「社会」では，前年度最低の「政治・経済」は，55.30点と約３点の上昇となったが，最高の「倫理・社会」(67.89点) とは12.59点の差となった。この点については，問題作成の段階で，過去の実施結果を研究分析するなど工夫改善に努めているが，今後，できる限り差の生じないように調和のとれた問題を作成するよう，さらに努力したい。

5　成績の各大学への提供

大学入試センターでは，各国公立大学及び産業医科大学からの成績の請求を受けて，それぞれの大学の入学志願者の総得点，教科・科目別の得点等について，資料の提供を行った。